

1. 研究課題名：播磨灘の栄養塩異変の解明と栄養塩流入負荷の変動要因の研究

2. 研究代表者氏名及び所属： 石塚 正秀
(香川大学工学部)



3. 研究実施期間： 平成 23～24 年度

4. 研究の趣旨・概要

近年、瀬戸内海がきれいになってきているが、ノリの色落ちやアサリの漁獲量の低迷も生じている。一方、河川の水質も改善してきている。瀬戸内法施行以降の環境政策が、河川と海に何をもたらしてきたのか、いま、河川環境管理のあり方が問い直されている。

本研究では、数値モデルや土地利用などの社会基盤データを解析して、陸からどれだけの量の汚濁負荷が発生し、降雨によりどれだけ海へ流れ出るのかを明らかにする。同時に、下水処理水放流など人間活動と河川水質の変化の関係を調査・解析する。そして、社会環境の変化と河川環境、海域環境の関係の解明を目指す。

これにより、総量規制などの環境政策への基礎的知見を示す。

5. 研究項目及び実施体制

- 1) 陸圏負荷量変動の総括と沿岸環境との関連解明 (香川大学)
- 2) 陸域からの栄養塩負荷量変動 (神戸山手大学)

6. 研究のイメージ

陸域からの汚濁物・栄養物の流出量の変化

